

2018年度地域文化演習・地域文化調査法・地域調査入門・地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧（2018年3月13日）

地域文化演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
佐藤哲夫	C	広域型商業地区の捉え方	大都市内の広域型（観光地型）商業地区の見方について、資料を中心にして学ぶ。また自由が丘地区を事例とした調査結果をまとめることで、地域調査報告の書き方を学ぶ。前期は文献報告、後期はレポート作成が主な内容となる。現地調査はGW、夏休み、その他休日を利用して行う。	水・2
橋詰直道	E	都市に関する文献調査と現地調査	都市や住宅地に関する人文地理学の論文を前後期、複数回レビュー発表することで、地域研究の課題や調査方法を学ぶ。夏休み中には、各自地域調査をし、その調査レポートを9月に提出してもらおう。また、後期(9月又は10月に3泊4日)に関東甲信越地域の中小都市を事例に、ゼミ合宿形式での地域調査を行い、地理調査の方法や調査結果の集約・分析方法、まとめ方などを学び、調査報告書の作成も行う。4月に授業での文献レビュー発表順やレポート提出及び地域調査の日程を決める。前・後期に各1度、都内日帰り巡検も行う。授業・調査ともに真剣に取り組む学生に限る。	火・4

地域文化調査法(3年選択必修)

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
小田匡保	A	酒田市の人文地理（農業・商業・観光など）	山形県酒田市	10月下旬（3泊4日）	酒田市に関する統計の分析、地図の読み取り、文献の講読の後、グループで調査テーマを決めて、現地調査（聞き取り・観察など）を行なう。現地調査後は報告書を作成する。	水・5
須山 聡	D	集落点検の実践	奄美大島宇検村久志・生勝集落	6月28日（木）～7月4（水）	地域調査の計画立案・現地調査・報告書の作成を実習する。今年度は奄美大島宇検村の久志集落と生勝集落を対象に「集落点検」を実施する。集落点検は、集落の維持・存続のための有効な具体案を住民との協働のワークショップによって考える、地理学の実践の場である。これまで、提案した内容のいくつかは実行され、集落に新たな活気をもたらしている。	水・2
高橋健太郎	E	農山村の暮らしと産業	長野県栄村と周辺地域	6月（4泊5日）	少子高齢化の進む山間集落でフィールドワークを行なう。班ごとに調査テーマを設定し、事前準備から報告書作成まで取り組む。主なテーマは、耕作放棄の経緯と実態、人と獣の共生、スキー場経営の課題と対応など。「村落地理学」を未履修の人は、今年度にA・Bとも履修のこと。	月・3
土谷敏治	F	都市における公共交通の課題	岡山市と周辺地域（予定）	10月中旬	交通を中心とした都市の問題を主要なテーマとする。まず、交通・流通・都市・人口等に関する文献の講読を通じて、調査計画の立て方、実際の調査・研究の方法、結果の分析方法、論文の書き方などを学習する。その成果を踏まえて、各自の調査・研究計画の立案、資料の収集、現地調査、調査結果の整理・分析、調査報告書作成の実習を行う。都市の公共交通が主要なテーマであるため、公共交通機関と徒歩を前提とした調査とする。	火・5

地域調査入門(2, 3, 4年選択)両専攻共通

教員名	記号	入門テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
田中 靖	A	身近な自然のフィールドワーク	関東地域	週末（土曜日）に複数回	自然地理学の現地調査ではどのような視点で景観を観察しているのかを学ぶ、入門編の調査実習である。授業時間を利用して事前学習（データ分析・地図作成など）を行い、週末（主に土曜日）を利用して調査実習を行う。	前期 火・4
須山 聡	C	豊年祭の参与観察	奄美大島宇検村久志集落	9月14日（金）～17日（月）	奄美大島宇検村生勝集落で旧暦8月15日に開催される年中行事である「豊年祭」を参与観察し、行事の運営や参加者の行動を記録する。単に行事を見物するのではなく、準備を手伝い、踊りや余興・相撲などの演目に参加する。そうした中で、集落の維持・存続に関する知見を得る。	後期 金・4
平井幸弘	D	ラムサール登録湿地の保全とワイズユース	福井県南西部の若狭町・美浜町地域	10月中下旬に2泊3日～3泊4日	福井県南西部の若狭町・美浜町地域において、ラムサール条約湿地である三方五湖を中心に、その自然と保護・再生、地域資源のワイズユースやツーリズムなどに関して、関係機関・団体・個人を訪ね、地形、水文、植生、景観調査などを実施する。	後期 火・4
佐藤哲夫	E	土地利用図の作成と利用	那覇市	10月末～11月初の2泊3日	2万5千分の1土地利用図の図式に従って現在的那覇市の土地利用図を作成し、過去の土地利用図と比較して那覇の都市構造の変化について考察する。	後期 水・4
櫻井明久	F	農村地域の景観と変化	大田原市・那須塩原市	5月28日（月）から5月31日（木）	自然環境の違いを地形図で読み取り、現地での景観観察によって農村の条件とその変化傾向を考察する。あわせて、それら農村の中心としての田舎町と地方都市の構造変化を考察する。	前期 火・3

地域環境演習(3年選択必修)

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
江口 卓	A	日本とヒマラヤで気候環境を考える	気候に関する論文の講読を中心に行う。前期は日本における都市気候または気候景観に関する論文の講読を行う。後期は、ヒマラヤ地域の環境に関する論文の講読を行う。後期に、気候景観をテーマに八ヶ岳周辺での巡検を実施する予定である。	水・3

地域環境調査法(3年選択必修)

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
鈴木秀和	B	浅間山の自然とそれを活かした地域振興	群馬県嬬恋村・長野原町周辺	6月下旬～7月中旬(3泊4日)	一昨年、日本ジオパークに認定された浅間山北麓地域の自然環境（水文・地形地質・植生など）やそれを活用したジオツーリズムによる地域振興に加え、防災などの取り組みについて調査する予定。現地調査前には、文献購読、調査テーマの決定、調査計画の立案する。調査後は、その結果をもとに報告書の作成に取り組む。	火・5
鈴木重雄	C	琵琶湖東岸の自然環境と人々の暮らし	滋賀県近江八幡市	10月上・中旬の3泊4日	琵琶湖沿岸の滋賀県近江八幡市において、里山や里湖やその周囲の平野の自然環境とその人による利用について、各自、調査テーマを決め、現地調査を実施する。現地調査前の授業では、対象地域や調査方法に関する文献の講読を行い、調査計画を立案する。現地調査後は、調査結果をまとめ、報告書の原稿の作成を行う。	火・4
田中 靖	D	熊本地震（2016年）の検証	熊本・阿蘇地域	10月上旬に3泊4日の予定	2016年に発生した地震と地震被害などについて、自然地理学的な視点からの検証を行う。班別にテーマを決めての調査実習を中心とする。取り扱う内容は大まかには以下の通り。①平野の地形分類と液状化、②火山地形とテフロクロロジー、③崩壊による地形変化、④活断層と地震、⑤地震被害からの復興、⑥ジオパーク	月・3
平井幸弘	E	湖沼をめぐる環境問題とワイズユース	鳥取・島根県の中海・弓ヶ浜地域	夏季休暇初めor後期授業初めに3泊4日	鳥取・島根県の中海・弓ヶ浜地域において、湖沼をめぐる開発・環境問題、地域資源の持続的利用、砂浜海岸の保全・再生などに関して、関係機関・団体・個人を対象に聞き取りや質問票調査、また地形、水文、植生、景観調査等を実施する。	水・4

\*演習と調査法、地域調査入門と演習または調査法を履修することも可能です。履修希望者が多い場合は、人数を調整することもあります。